

今後の現地研修会・協議会の進め方について

現在、協議会に構成する関係機関がそれぞれの目標に向けて捕獲対策を進めているが、対策の効率化や国立公園の保全効果を生むためには、対策目標の明確化と目標に向けた戦略による連携した対策が重要となる。

これまで開催してきた現地研修会・協議会を活用し、捕獲計画の立案・実行・評価におけるステップの基盤を構築することで、効率的かつ継続的な捕獲推進を目指す。

1. 計画（7～8月）

例年 11-12 月に開催している現地研修会を夏季に実施

集約したデータをもとに阿寒摩周国立公園及び隣接地域における捕獲計画を立案・議論

（2 年目以降は、前年度に協議会で議論された課題・改善策を踏まえて捕獲計画を更新）

2. 実行（秋以降）

捕獲計画も踏まえた関係機関による捕獲

（各種事業としての捕獲実施、優先的に捕獲を実施してほしいエリアの狩猟者への発信等）

3-4. 評価・改善（2～3月頃）

阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会において、実施した対策の評価およびそれに基づく改善策を議論

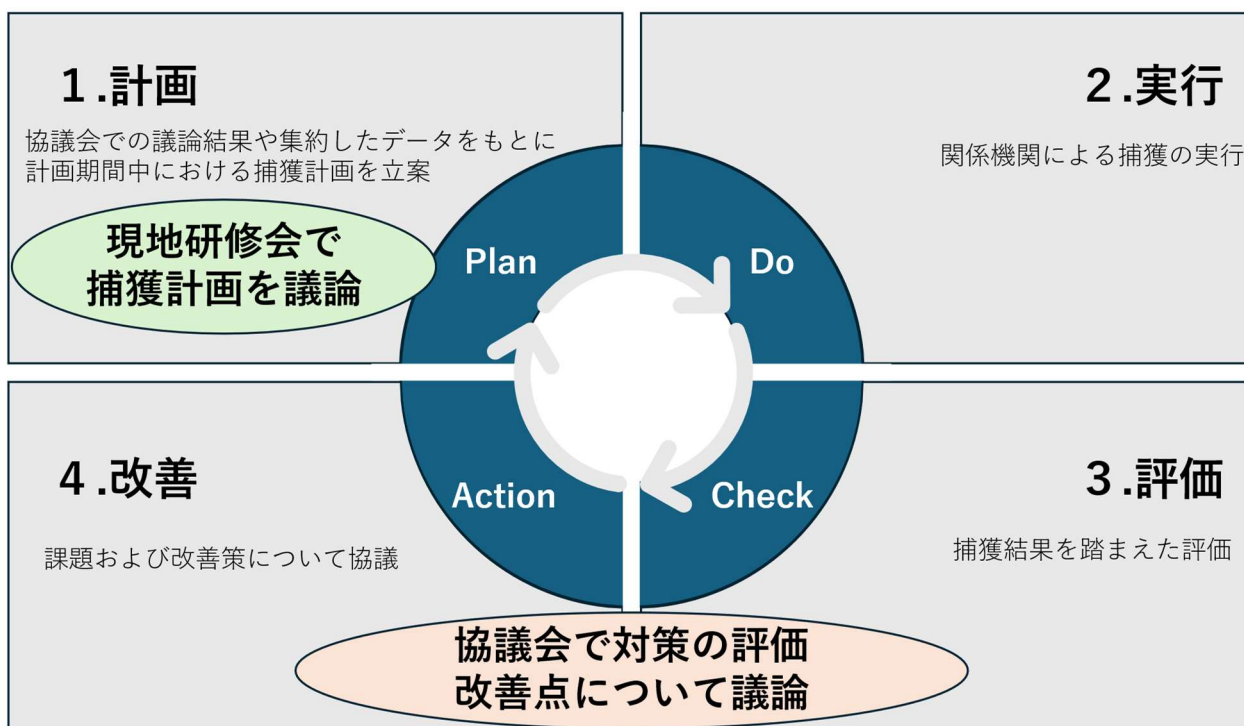


図 1. 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会としての捕獲に係る PDCA サイクルの考え方

現地研修会で議論する捕獲計画（イメージ）

阿寒摩周国立公園及び隣接地域という広範囲で関係機関で連携したエゾシカ対策を進めるにあたり、効果的な連携が可能な範囲で『対策グループ』を作り、対策目標を共有のうえ、相互に対策を連動させることで、効率的な捕獲の推進を目指す。

[捕獲目標の目安となる考え方]

北海道によるエゾシカ対策有識者会議で算出された、令和6年度における東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室管内）の推定個体数 32 ± 8 万頭にに基づき、阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画の対象地域内(3029.7 km²)における推定個体数を、 $24,500 \pm 6,000$ 頭程度とした。

対象地域における推定生息数の中央値に自然増加率（20%）を乗じた **4,900 頭** を令和8年度の本実施計画における対象地域内の仮捕獲目標として設定する。（※）

*対象地域内外でのエゾシカの移出入や密度を考慮していないため、捕獲による効果を評価する際には留意する必要がある。

<参考> 北海道 環境生活部 自然環境局 野生動物対策課 エゾシカ対策係

エゾシカ対策有識者会議：<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/est/ht/184000.html>

[想定される対策グループ]

- ・GPS データから考えられる対策グループ

第1期計画期間に蓄積されたGPS首輪による行動追跡データから、夏の生息地、冬の生息地が明らかとなっている。このデータ等を元に対策グループを設定し、シカの移動ルートを考慮して、年間を通じた捕獲効果を見込む。

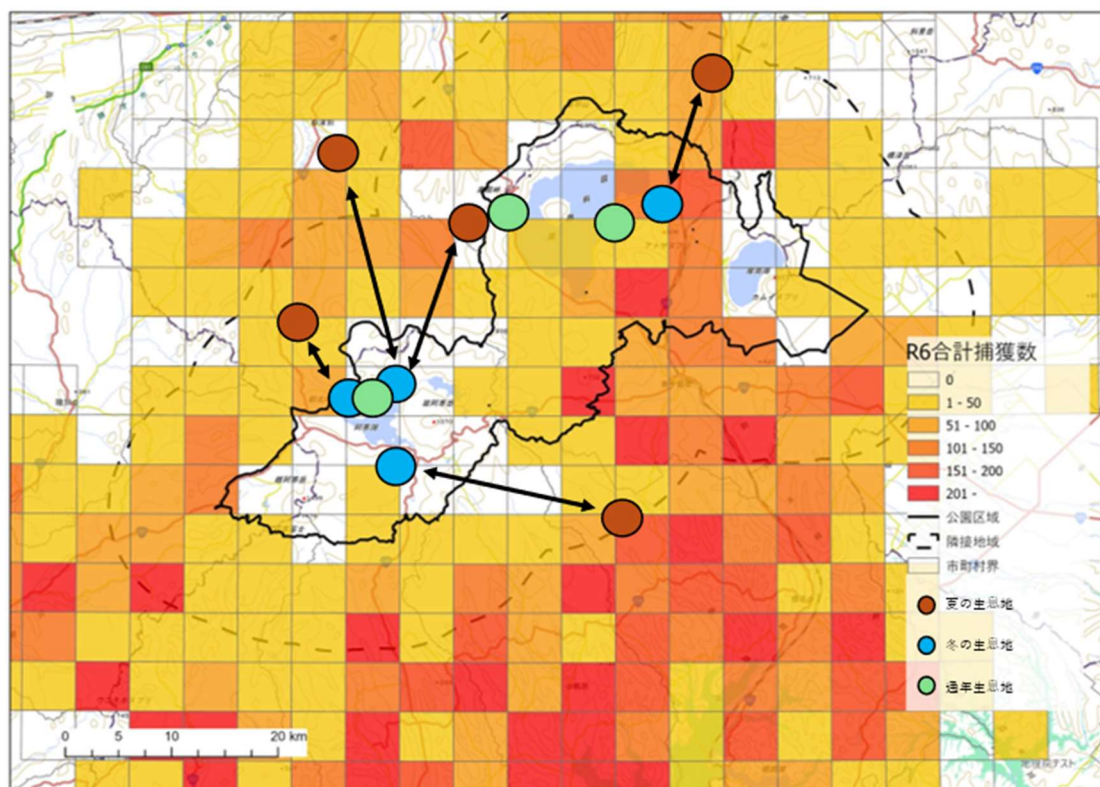


図2. 令和6年度のエゾシカ捕獲状況および主要な季節移動

阿寒湖北部～津別町

保全対象：阿寒湖北岸森林の生態系（保水・濾過機能の維持、天然更新）

対策の目的：保全対象の回復、津別町の農地の被害低減、阿寒湖北部及び周辺の森林被害低減

関係機関：環境省、網走南部森林管理署、根釧西部森林管理署、オホーツク総合振興局、
釧路総合振興局、釧路市、津別町、前田一步園財団

●想定される捕獲場所

通年：前田一步園所有林（阿寒湖北側）

非積雪期：津別町相生、津別町上里（阿寒湖北部で GPS 首輪を装着した個体の追跡データから、
優先的に有害鳥獣捕獲を進めて欲しいエリアを検討）

モニタリング：植生調査（阿寒湖畔森林 A 区、チウルイ川）

ライトセンサス（津別町本岐・上里）

●想定される役割分担

環境省：全体戦略及び捕獲候補地の提案、対策結果のとりまとめとモニタリング・評価

森林管理署：捕獲の実施、協定による林道の除雪・給餌等

振興局：捕獲の実施、モニタリング（ライトセンサス）の実施

市町村：有害鳥獣捕獲の優先エリアの提示

前田一步園財団：捕獲の実施（囲いわな）

砂湯・川湯～小清水

保全対象：ポンポン山噴気孔植生、屈斜路湖北岸の森林、川湯アカエゾマツ林の低木層

地域の対策の目的：保全対象の回復、小清水・清里の牧草地の被害低減、川湯市街地の出没低減
弟子屈町周辺の森林被害低減

関連機関：環境省、根釧西部森林管理署、網走南部森林管理署、釧路総合振興局、オホーツク総合振興
局、弟子屈町、小清水町、清里町

●想定される対策

簡易保護柵：ポンポン山（エゾシカ影響の把握）

捕獲

通年：川湯市街地、砂湯

冬季：弟子屈町仁伏（現在国有林が実施）、川湯周辺、野上林道

非積雪期：小清水町水上町営牧場（現在小清水町が実施）

小清水町上徳、大空町山園、清里町緑（川湯で GPS 首輪を装着した個体の追跡
データから、優先的に有害鳥獣捕獲を進めて欲しいエリアを検討）

モニタリング：植生調査（川湯、ポンポン山、つつじが原）

ライトセンサス（小清水町水上・上徳、大空町山園）

●想定される役割分担

環境省：全体戦略及び捕獲候補地の提案、対策結果のとりまとめとモニタリング・評価

森林管理署：捕獲の実施、協定による林道の除雪・給餌等

振興局：捕獲の実施、モニタリング（ライトセンサス）の実施

市町村：捕獲対策の継続、有害鳥獣捕獲の優先エリアの提示